



明治廿九年の凶作のあとをうけた翌三十年は出水、暴雨が続く重なる凶作に各地山農村民はたちまち飢饉の状態に追ひやられました。水のため過半の耕地を押し流され加へてウンカの虫害に襲はれた新津地方農村はあげて取極絶無という状態で、平時において

### 明治・大正の悲惨なる郷土の水害(一)

民の惨状は、それこそ目も当てられませんでした。初夏まじりの屑米に野菜類をまぜた代用食を喰ひつづけた農民は、蕨の根を喰つたり、櫛の実、さては山野に自生する草木を常食として僅に露命を繋いだものです。その夏石九円内外であった米価は一躍三十円台に跳上ったもので各地に何となく大不安米の配給が濃く動き出して来ました。新津地方に南京米が初めて輸入されたのはこの年のことです。

### 時の新津地方農民の姿

たもの自殺したも等々、深刻を越えた惨話もありましたが、この新津郷歴史的飢饉年にあつて、しかも計画的・積極的の凶放方策が講ぜられなかつたに拘らず、よく農民はこの生命の難局を押し切つたものだ、と今更感慨に打たれたのです。尤も農民自身が殆ど自力でこの飢饉を克服したのには見逃すことの出来ぬ重要な原因があると思ひます。当時の新津郷農村一般事情は、耕地が狭くかつ味薄く、痩せてゐる農業技術の発達は甚だ遅々たるものでした。それでゐる地主の勢力といふものは現今では到底想像を許さぬ程に強大だったのです。不当に高率な小作制度を以て苛酷請求を行ったもです。それに当時の農村には過剰労働力があつて今日のように副業の発達なく、出稼などしなかつたので貨幣収入の途がなかつたのです。

### 時の新津地方農民の姿

くりにあつて、深い生活に生かされてゐた農民の精神的、体力的抵抗力が、周期的にしばしば要つたのであると考へられるのでした。大正三年の水害大凶作も惨禍に至つては余り変わらぬまゝで、この水害直後に阿賀、能代川の改修それから大津分水など諸川の治水、排水事業が完成したので新津地方民は水害の災難、したがつて凶作惨禍から救はれております。(以下略)

各町村役場では食料配給

所を急設して吸入の重ビスケット(軍隊用)の配給、それに老人幼童には一食一合、大人一合五つづつの内米米、南京米混用粥を三食配給しました。期間は約四か月間に亘つたと記憶してゐます。当時の新津は今日のやうな市街地ではなく、大部分が百姓でしたから粥食給与の延人員は莫大な数字に達したと思はれます。

### ふものは現今では到底想像を許さぬ程に強大だったの

目下東北地方農村の凶作飢饉の実状が新聞紙によつて詳細に報道されてをりますが、写真に現れてゐるあの陋屋の量のない家に住み布団の代りに藁を敷いて寝てゐる風景は、まづたく當時の新津地方農民の姿を、くりぬいて、

### 明るい選挙の啓発ポスター募集

- 応募資格：小学校児童・中学校・高校の生徒(一人一点、自作のものに限り)
- 大きさ：45cm×30cmから55cm×40cmまで
- 内容：明るい選挙をおしずめることを表すもの(色彩は自由)
- 応募先：新津市本町二二一(電話24-2111内線230)
- 締め切り：九月十日
- なお作品の裏面右下に、学校名、学年、氏名ふりがな、性別などを必ず記入してください。

### 銃刀剣類登録審査会を開催

- とき：八月五日(月)の午前十時～午後三時(ただし、受付は午後二時三十分まで)
- ところ：新泉庁七階(新潟市新泉町四一)
- 持参するもの：登録を受けようとする銃砲刀剣類、銃砲刀剣類発見届出受理証、登録手数料(一件につき四千五百円)、印鑑

### 家庭看護教室を開催します

- 新津保健所では、次のように「家庭看護教室」を開きます(受講料は無料)。
- とき：七月二十一日(月)、

### 昔話の情報収集にご協力を



8年前に出版された「にいつの昔話」

現在、図書館では、「にいつの昔話」の第二集を作るため、新津市に古くから語りつがれている民話や伝説などを整理しています。市民の皆さんの中で、小さいころにお年寄りなどから聞いた話を覚えていらっしゃる、昔話をよく知っている人をご存知の方がいましたら、新津の昔話編集事務局(図書館内22-0097)へご連絡ください。

- 二十九日(月)の午前九時三十分～午後三時
- ところ：新津保健所
- 定員：三十人
- 内容：寝たきり老人の介護方法
- 持参するもの：筆記用具、エプロン、昼食
- 申込み：七月十九日までに新津保健所保健婦室(電話5171)へ
- ※当日は動きやすい服装でお出かけください。

お買物、ご用命は市内で

## 護身と長寿若返りの妙技

小学四年以上の男女百歳でも少々体の不自由な方でも大丈夫  
勇気と自信と健康を求められよ  
週1回くらいが最適 水・金夜7時～9時まで 日曜日午後2時～4時まで

### やわら柔術健康道場

新津市結所(バス停前) 道場 古善原 峰乃工場 電話24-0470  
自宅連絡所 食街 電話22-1058  
五泉道場 緑町 電話42-0336

